

2018年3月19日

プレスリリース

## 常設展「猪熊弦一郎のおもちゃ箱」

2018年4月14日(土) - 7月1日(日)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



[お問い合わせ先]

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

公益財団法人ミモカ美術振興財団

展覧会担当 古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766

E-mail. [press@mimoca.org](mailto:press@mimoca.org)

## 常設展「猪熊弦一郎のおもちゃ箱」

### 〔概要〕

展覧会名：猪熊弦一郎のおもちゃ箱

会期：2018年4月14日(土) - 7月1日(日) 会期中無休 [79日間]

時間：10:00-18:00 (入館は17:30まで)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室C

主催：丸亀市、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

観覧料：一般300円(240円)、大学生200円(160円)、高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

・( )内は20名以上の団体料金

・同時開催企画展「荒井茂雄展 人生の詩」の観覧料は別途

### 〔開催主旨〕

2018年2月26日に発行された、猪熊弦一郎(1902-93)を紹介する書籍『猪熊弦一郎のおもちゃ箱 やさしい線』(小学館)にちなんだ展覧会です。代表的なカンヴァス作品に、小さな立体作品やスケッチブック、収集品などを織り交ぜ、猪熊の生涯を展覧します。

### 〔見どころ〕

- ◎ 猪熊は新しい表現を求めることでたびたび画風を変化させてきました。その変化は多くの場合、東京、パリ、ニューヨーク、ハワイと拠点を移し、環境が変わることに伴って起こりました。本展では、それぞれの地で描いた代表的なカンヴァス作品を展示し、猪熊の多様な表現を一望に収めます。
- ◎ 道で拾ったガラクタなどで作った小さな立体作品(オブジェ)、遊び心あふれるスケッチブックの小品、暮らしのなかで愛用していた雑貨やいつも身近に置いて愛でていた小物などを、大きなカンヴァス作品に織り交ぜて展示することで、当美術館の大きな展示室を猪熊の大事なものがいろいろ詰まったおもちゃ箱に見立てます。
- ◎ 画業だけではなく、身の回りのありふれたものに美しさを見出したり、どんなものにも愛情を注いだ人と成りや、センスあふれる丁寧な暮らしぶりにも注目し、猪熊の人物像に迫ります。

### [関連プログラム]

#### ◎キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子）とお話ししながら一緒に作品を鑑賞しましょう。

日時：会期中の第1日曜日 15:00-

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込み：不要

### [関連書籍]

#### ◎『猪熊弦一郎のおもちゃ箱 やさしい線』

猪熊弦一郎の画業を軸に、出会った人たちとの交流や、丁寧な暮らしぶり、美しいものへの愛情など、猪熊らしいエピソードが織り込まれた、猪熊の生涯を紹介する物語作品集。猪熊が収集品への思いを綴った幻の名著『画家のおもちゃ箱』（文化出版局 1984年、絶版）も一部再収録されている。

文：小宮山さくら

監修：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

発行：小学館 2018年2月26日

価格：2700円（税別）

### [同時開催企画展]

#### ◎荒井茂雄展 人生の詩

会期：2018年4月14日（土） - 7月1日（日） 会期中無休

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室A・B

## [作家プロフィール]

### 猪熊弦一郎 / Genichiro Inokuma (1902-93)

- 1902 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。
- 1922 東京美術学校（現 東京藝術大学）西洋画科に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- 1926 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1936 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランス、パリに游学（1940年まで）。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1941 中国文化視察として佐藤敬と南京方面に派遣される。
- 1942 陸軍省派遣画家としてフィリピン戦線に派遣される。
- 1943 新戦場従軍画家としてビルマに派遣される。
- 1944 神奈川県津久井郡吉野町（現相模原市緑区）に疎開（1946年まで）。
- 1947 小説新潮の表紙絵原画を描く（1987年まで）。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。  
前年制作した慶應義塾大学壁画《デモクラシー》及び名古屋丸栄ホテル壁画《愛の誕生》に対し第二回毎日美術賞を贈られる。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。
- 1955 再度パリでの勉強を目指し、アメリカ廻りでの世界旅行を計画、日本を発つ。途中立ち寄ったニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。渡米をきっかけに抽象画を描くようになる。
- 1956 ニューヨークのウィラードギャラリーで新作個展を開催。以後、同ギャラリーの所属作家となり、1972年まで全10回の個展を開催する。
- 1969 日本橋高島屋等にて大規模個展、ニューヨークでの成果を日本で発表する。
- 1973 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1978 雑誌『ミセス』（文化出版局）にて自身の収集品を紹介する「現代玉手箱」を執筆、1月から1年間連載する。
- 1984 **1978年の『ミセス』の連載に書き下ろしを加えて1冊にまとめた書籍『画家のおもちゃ箱』が文化出版局から発行される。写真はすべて大倉舜二によるもの。**
- 1989 丸亀市へ作品1000点を寄贈。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館する。
- 1992 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。  
以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993 東京にて死去。90歳。